

クラブサービスとしての運動部活動における学校・地域の連携について

佐々旅人（鹿児島大学大学院 教育学研究科）

1. 研究の目的

本研究では運動部活動と学校外との関係構築に関して、学校と外部指導者及び地域との連携を焦点とし、その構造を明らかにする。また、「クラブサービス」としての運動部活動における外部指導者及び地域との連携について考察する。

2. 分析モデル

運動部活動における外部指導者及び地域との連携の構造として、大きく「促進要因」、「制約要因」、「制度的要因」の3つの要因が関係していると考えられ、学校と外部指導者及び地域との連携には「促進要因」と「制約要因」が影響しており、制度的要因が「促進要因」と「制約要因」の両者のバランスに影響を与えているという分析モデルに基づいて検討を進めた。

3. 研究方法

分析モデルの検討のため、質問紙調査及びインタビュー調査を行った。質問紙調査は、全国の公立中学校310校の体育主任を対象に郵送法により調査票を配布した。調査期間は、2017年11月6日から11月20日であり、回収数は124校、回収率40.0%であった。調査内容は、学校と外部指導者及び地域との連携の「促進要因」及び「制約要因」、外部指導者導入の積極性及び運動部活動の運営改善、学校規模等基本属性、外部指導者導入の客観指標に関わる測定尺度により構成した。

インタビュー調査は、鹿児島県鹿児島市で活動している総合型地域スポーツクラブの理事長O氏を対象に行った。

4. 結果と考察

1) 「促進要因」及び「制約要因」の因子構造

学校と外部指導者及び地域との連携の促進要因・制約要因、それぞれの測定尺度ごとに、主成分分析・バリマックス回転による因子分析を行った。その結果、促進要因「外部指導者導入の前提条件」は「教員の時間的条件」と「専門的指導性」の2因子で構成され、促進要因「外部指導者への期待」は「外部指導者への役割期待」と

「学校外組織からの支援」の2因子から構成されることが明らかとなった。

制約要因「外部指導者導入の阻害要因」は「学校外部環境との境界関係性」、「教員のアイデンティティ」、「教育行政との非連携性」の3因子から構成され、制約要因「外部指導者導入の不安要素」は「異質性の拡大に伴う不安」、「経済的非合理性」、「求める条件との不一致」の3因子から構成されることが示された。

2) 分析モデルの実証的検討

「外部指導者導入の積極性」に関する測定尺度を基準変数、学校と外部指導者及び地域との連携の「促進要因」・「制約要因」の各因子得点を説明変数とした重回帰分析を行った。その結果、「専門的指導性」「異質性の拡大に伴う不安」、「求める条件との不一致」の3因子が有意な数値を示しており、運動部活動の専門的な指導を強く求めるほど、外部指導者導入の積極性は高くなり、異質性の拡大による不安が大きいほど、また、外部指導者に求める条件との不一致による不安が大きいほど、外部指導者導入の積極性が低くなることが明らかとなった。インタビュー調査の結果では、学校と外部指導者及び地域との連携に「専門的指導性」、「経済的非合理性」が影響を与えていることが明らかとなった。また、制度的要因が学校と外部指導者及び地域との連携の「促進要因」及び「制約要因」の相互の関係に影響を与えることが明らかとなった。

3) クラブサービスとしての運動部活動における外部指導者及び地域との連携

インタビュー調査の結果から、生徒と外部指導者との交流によって生徒の様々な能力獲得の可能性が示唆された。一方で、質問紙調査で得られたデータの分析によって、外部指導者の生徒指導力や教育的資質を不安に思っている学校は外部指導者導入に消極的であることも明らかとなった。これらのことから、外部指導者の指導の実際と教員の意識のギャップの改善がクラブサービスとしての運動部活動における外部指導者や地域との連携の推進において重要となるものと推察された。